

各
家
名
錄
①

1617

5月 15042
398

③

1617

西暦一九一六年三月二十一日

昭和二十年八月二十一日

山梨本縣特高課長

事務官名

上子セシトシ如 山將持ノニ勤

本日午迄六年甲子令頃 富士本子ノニ孤遣セシ特高係迄

重ハ船津所ニ於テ 津守也也 切方佐北展團越 五ノ

下士官一人 人夫五六名 乗車ノトヲツリニ 漕運シ之ニ 同乗

シタルカ、 該所佐ノ北展迄 重ニ 勤セテ 在ノ 定勤了リ

ケルニ 付中 及 念 報 告 云

大日本帝國政府

自令、今口一事に、既之九日頃カテ合フテ申リ然シ

昨口在テオカクワフ時ニハ、コノ幕表ハ相カテ迄ハ豫定

テ、アツクカキリ、手是際下也、シヤク、ノ市放送

ヲ揮セ、案ニ急カ、思フテ申シ、十日口現在ノ敵

ノ状勢ハ、概動部隊ト後方ニ相違多数ノ上陸

用船艇ヲ附セテ申シ、ヲ察見、シタノテ、軍トシテ

ハ之カ上陸ニ際シ、之ヲ攻撃シ、其ノ勢ヲ破テ期

七日、本帝國政府

又此事に各軍司令官の意見一致ありて

所訂了ん然に之を口へ懐疑力に依りて

一変化ありたり一カト思ひしに新テハ

應じり取んと言ふ事一かアツテハ

急披上意に其旨迄之辨明ありて

忠事名に所據署長トモ面識の向柄

署長に宣敷りと傳書し其旨大目

大日本帝國政府

(折上ヨリ思惟ノミナシ)

大目ヨリ 迄 女ニヨリ 上 幸 云々 一 判 裁 せ 了 上

12
上

4

大目ヨリ 迄 女ニヨリ 上 幸 云々 一 判 裁 せ 了 上

昭和三年八月十日

山梨県庁長

~~軍学~~ 為

軍学、移動之手段に

本日の午後六時半頃 松本市(長生町)より山梨県

九〇〇名乗車せし 軍用列車に官下り通過 午

遊 遊子市方面より 該移動に 既定計

例に基き 移動に 恩料 〆〆〆〆 〆〆〆〆 〆〆〆〆

等々

山梨県庁長

連。總。五。人。下。

昭和二十一年六月十日

瑞玉縣特高課

事務官

豫科士官學校種田中佐一十郎

管下案別居所

朝香平科士官學校種田中佐(三ヶ中佐)附

種田中佐

大者本台午左五才以所 兼兵所 種田中佐

本日詔書の中 燦葉二十の如 軍下絶對抗戦の

上司ノ命ノ旨カ_レ了_レル_レ意見_ノ考_ル事_カ了_ルカ_モ知_シル_カ

吾_レハ_レ脚_起ヲ_レん_ハ算_ハ半_云ト_申シ_向ト_言ル_ヲ以

于_所轉_署長_ハ其_際下_レ布_告ヲ_奉戴_シ差_如ク

ニ_キ事_ヲ説_テア_セル_ニ合_中一_佐ト

議_論ハ_迄ニ_角老_ハ能_ク迄_脚起_スル_カ

意_思丈_ヲ傳_ハテ_置キ_云云

ト_稱セ_合署_ヲ退_去セ_リ右_報告_ニ

二一六号目文手

八月十七日

電活報告

保赤海軍公物

Handwritten signature or name

日信報

軍用(兵団長 石川中將)

軍下之海軍下一定兵(子軍団)ニ事あり部

隊ニ事あり(兵団長)ニ事あり(子軍団)ニ事あり(子軍団)ニ事あり

軍下之海軍下一定兵(子軍団)ニ事あり(子軍団)ニ事あり

故部ニ事あり(子軍団)ニ事あり(子軍団)ニ事あり

昭和二十一年八月十六日

陸軍特務隊 陸軍特務隊

陸軍特務隊

陸軍特務隊 演説

昭和二十一年八月十六日 陸軍特務隊 演説

陸軍特務隊 演説

陸軍特務隊 (少尉) 演説

某 陸軍 特務 隊 演説

演説 了 存 七 分 八 換 換 之 了 目 下 詳 細 調 査 中 了

二一六 演説 了

大日本帝國政府

保

局長ノ事務



昭和三十年八月十八日午後六時申
山本事務特務局

(國定規格B5二六三三七紙)

一 管内山崎系ノ一部ノ長友ノ照我アリ
答見 (出我ノ書ノ中ニテ取明然
付セシムル)

只一途ニみこかしみ我所は
書く也 諸人ノ旨の如也

一 流言関係

(1) 管内ノ一部
朝敵ノ人カ我々ノ機宜ヲ得タトテ
ニ乗リテ加入ノ知部隊カ活動シタ
トノ流言吹散セシムル
管内山崎系ノ一部ノ長友ノ照我アリ
答見 (出我ノ書ノ中ニテ取明然
付セシムル)

大日本帝國政府

周知 仰希 庭ニ付テ 想像ヨリ 所及 昭示 法之
啓也 即チ

十六日 祝 姫殿下ト 稱ス 同 節 不 宣 嘩
シテ 醜 婚 迄ニ 及 展 示 姫 殿 下 卜 帰 子 女
セニ ト 示 反 及

兩下ハ 平民ニ 十リ 百ヲ 子 也 重 難 能 付
取 能 々ハ 帰 又 ト

(一) 甲府 六三 部 隊 移 行ハ 機 案 以 示 事 一 燒 却
ヲ 為 ス 一 十 三 日 寢 具 等 凡 燒 却 示 一 行
一 般 子 民 加 衣 物 等 困 乏 場 合 甚 多 不 拘
不 却 念 十 行
一 去 反 一

(二) 横 濱 地 方 一 等 森 野 村 八 等 森 野 村 一 等 森 野
要 々 署 長 以 下 三 五 人 出 行 居 宅 外 介 介

大日本帝國政府

一、農村方面ノ状況

一時供出状況等ニ考慮セラルルニ付、以テ

了、積回後ノ状況ヲ予見シテ、

一、金融状況
従来、拂出多ク、物収乏カ、故ニ特異ナル
及トシテ、去冬今ニ於テ、
額入100,000,000円アリ

タリ、
一、新年度ニ對シテ
中巨摩郡大窪町

農 向山良作 三十七歳

八反慮ノ村内ノ山ノ中ニテ、草刈録ヲ

以テ腹ヲ切り白敷ヤリ、

又、南留郡志分ノ、某(七十五才、男、)

八反慮ニテ、草刈録ニ付、

大日本帝國政府

是十人の新子總之此の欲之今電車之飛
 自殺ヲ遂ケル
 其地一般の公平新ヲ持之
 以上

(國定規格B5 182x257)

14

大日本帝國政府

連絡簿

(國定規格B5二六×三三毫米)

昭和二十年一月二十日

山梨縣特高課長

保安部長 事務官

地司司令官 特高隊之指令

本夕電話報告也 標記一件 調査之 地司

司令官命令トシテ 特高隊長ニ對シ

本夕以テ 関東軍及南方軍ニ戰斗シテ 南

始セリ 仍テ 各隊長ニ 刻錄ヲ 續行セリ

ウ入シ

ト命令ノ電詔ニテ通達セリ

在所ノ最近當也司合部ノ報急部ヲ干後主

任部員トシテ報急部ニテ轉勤ニ事タシム

親自之勝少佐ノ所序ニ神也ヤト注意中ノトコト

八代郡ノ官持持與隊視察ノ勤キ家

員ヲ集メ

幸々同車中家並南方軍ニ戰斗ノ開始シテ

未如修戦協定成立シテハニ種ナシカニ出テ

引續キ控刻練ヲシテ遂サレ及イ

ト極大干預カイ一割子行ト引上知事模

持ナリ

右ノ事ナリ

連絡人

○鉄道不備に候旨安部録より
指示方鉄道中局へ連絡依頼入る

特以隊ノ措置

昭和二十年八月二十一日

鉄道不備ノ

保安部長ノ事務官

山梨県小高課

連絡

軍ノ動靜其地

朝鮮人ニ對スル

一軍ノ動靜

西巻

人事地三司令官

特別隊

隊ヲ要スル旨

停戦協定成立迄ハ訓練ヲ續行シ武器彈藥

類ハ一經工力ニ鑑テ置ク事

ノ指令ヲ受テ之ヲ行フニ付武器彈藥等ノ措

大日本帝國政府

置の敵軍に意中ナリ

2. 管下ニ特別攻撃隊駐屯基地ニヶ所(吉田、竜王)

了んか 吉田基地ニ在リキ、業員ヲ目下得

者セシメ了んカ、整備兵ハ悲痛ナル感之候リ決

メ敵軍土ニ侵入セシムニ機起セシトノ氣取守備ハん、

ヲ以テ、四敵軍攻撃中ナリカ 塞兵隊ノ力弱

ク甚ク敵軍攻撃ノ懸念セリ、所ナリ

大日本帝國政府

3. 昨十九日 横須航空隊所属厚木海軍航空隊

北村田隊第四班(隊長前川大尉、隊員一七〇名)重

倉整備員生三十七名ハ先遣隊トシテ

科密兵器ノ原料ヲ隘匿スル為メ

ト称シ経官下ヲ非先所ニ集メリタルカ 携行ハ此ハ

侵台五〇、衣服類、炊事道具等ナリ

4. 本日海軍中尉上ノ勝有以靴トノ名刺ヲ差込シ

大日本帝國政府

本島土木課長に御會方本十

縣に於て築造せし様迄の貸與料と及し、該様

窓二口付ト砲一燃料ヲ隱匿スルハ此ハ航空

司令長官一命令也

ト申込之タリ土木課長に於て「即時」

此旨與又ハ事ハ此事也又

ト之ヲ拒絶セリ。 該中尉ハコノ事

大日本帝國政府

廣く政府が此来より、軍中必要なる如何等なり
政府の点録する、コ、下類張る、知

等、不穩言動の決まり。

以上、如く軍、動靜、相違致す要す、又キ、

了り、殊に、特殊隊、干渉者、切動、一層注意す要

ス、又キ、元、了、ん、二、付、敵上陸前、二、適當、一、措置、二、ん、二

邦、如く、心、如何、す、ん、不、穩、力、動、二、出、す、ん、ヤ、又、行、り、種、キ

ニツキ軍一上層部一ト申連統一上適當処置ヲ構
セリト云

二、鉄道不修

管下甲府管区税部一ニ在リテハ從テ通りノ乘車
制限ヲ實施中一トシテ、身控線經由ニテ

管区縣下、神奈川縣下方有リ疎開者甚就

中一婦女子一婦難者續々事縣之混雜一極ニ

大日本帝國政府

達しつゝんが、食糧事一慌等極小千憂慮スルキ

状然下一縣下へ斯カハ避難者ノ身ヲ救入仕ハ

將來恐字上ヨリ途~~者~~者退シ得ハカクチんノミナリ

名古屋鉄造為管下等ニ在リテハ乗車制限ヲモ

存シ居リト風評又リ基一終放棄道得。其ん

又一了りト恩料と云ん、リ以テ鉄造高為ト評述

路一上善処方市取計ニ相成候

大日本帝國政府

三、朝鮮人下位

管下力位中、朝鮮人、其、就業定多、仕事場

事業場等、休止之儀、毎存続食中、ナシカ

外又彼等、一部ニハ、作業ニ従事セシム、食糧ノ増

取ヲ要スル、其、一、勤勞ニ不~~適~~適、天ノ測、深シク

ハ、了ム、ナシ、ナシ、毎存上、過、カ、事、ノ、短、ム、不、操、ヲ、控

キ、了、了、然、況、ナ、シ、ナ、シ、何、等、カ、職、業、轉、換、ノ、中、要

(折上定規用12×11cm)

了りト思料セるん、
中取意相煩七反

九申款之

210

大日本圖書

大日本帝國政府

保安課長

了 一月二十四日午後十時四十分

事務官

山梨縣 特設課

直轄飛行隊員、特用者、官口動

山梨縣飛行隊、南部隊、相村部隊

西本系、少、隊

如右本、平、百、土、口、田、五、定、米、回、百、是、二、計、一、左、記

言、動、手、機、也、

記

大日本帝國政府

岐阜十師管区司令官及び、今日軍務長

ヲ勅正へ、轉令様ヲ連カ之旨ヲ集事せしむ

べし、トノ命令之ヲ接受し之ヲ一様

出動し之ヲ

該一様ノ儀也人等ナリヤ否カ

果シテ敵様ヲ攻撃之ル為メナリヤ

否也不詳ナリモ無様部隊兵

隊ニ於テ戒ヲ要せしモノナリ

大日本帝國政府

昭和二十一年八月二十七日

事務官

山梨縣特高課長

治安狀況

軍一狀況无概亦平靜トナリ目下治安上

憂慮スヤキ元ノ十年モ甲府駅ニ於テ

接内札中一金貨ト兌換ストノ欲入ナキヤ

ハ近ク危殆トナ

トノ流亡發生セリ目下其一生所期盡中ト

昭和二十年六月二十一

山梨縣特高課長

事務官

甲府市所在陸軍留守業務部、勤務

管下所在甲府陸軍留守業務部第二課長名

ヲ以テ昨二十日午後六時頃、右管内宛、同文電報

七十通ヲ管下、東京部、神奈等一帯迄

送付

直カニ送付ニ付、第一課長

事務官

昭和二十一年一月二十日

山梨市農務指導課長

事務官名

長野縣所在部、学、勤、静

長野縣須坂所在部、隊ニ在リキ、監督官、下、長

者ニ對シテ、友、記、愛、報、ヲ、打、電、報、シ、ヨ、リ、カ、タ、官、ニ、シ、ヨ、リ、

十通、一、取、違、了、ら、る、

長、市、兵、隊、持、4、直、カ、得、シ、部、隊、長

昭和二十一年八月三十日

山梨縣知事

中島賢藏

内務大臣 山崎巖殿

管内状況日報 (八月二十九日分)

一般民意の趨勢

聯合國軍、第一次進駐状況ニ関シテハ、各方面共多ク、関心ヲ持シ居アリ、ソレ覆極メテ平穩融和裡ニ進接シツ、アル報道ニ接シ、恐有ク、聞キツ、アル状況ナリ。其、他各般ノ事象ニ對シテモ、民心ハ順次平靜ヲ述リ、夫レノ生活設計(特に食糧

買取保自(二年走)ニシテ格別一衛
對變化ヲ認メズ

二軍部ノ動向

(1) 玉橋飛行場(吉川隊)ニ目下陸軍機三
十機ヲ保有シ居ルモプロプラノ機數機
機作ヨリ取外シ航行禁止ヲ導守
シツニアリ 保有機中使用する能ハ
遂次焼却中ニシテ機作ノ引渡迄ニ
尚六ヶ月ヲ要スバシト自認シ居ル狀
況ナリ 因ニ同隊員ノ尚餘憤ヲ漏シ
ツマルモ不穩業動等ナリ

(2) 本月午後四時須坂局發信ヲ以テ縣下ニ散在スル所屬
歸還軍人百五十名ニ對シ

「毛布兵器ヲ持チスグ歸レ部隊長」ナル電報了接

電者ハ夫々歸隊中ノ模倣ナルガ其内情目下調査中ナリ

(3) 同日午後六時市內飯田町亦生

陸軍留守業務部第二課長

名ヲ以テ甲府局ヨリ熊本留守業務部ヨリ歸還セル

將其姓名(全國的)ニ第ニ

直ニ熊本ニ歸ル第ニ課長

トモ發信リ縣下ニ在ル接電者

塩崎村津谷八八一高橋守正

一名ニシテ同人ハ去ルホ六日熊本留守業務部ヨリ歸還セル

陸軍一等兵トシテ昨朝本電ニヨリ歸隊ス

(本件本省ト連絡梅)

大月憲兵檢問所ニ於テ正午迄ニ步兵銃ニ被テ押込ス

三、右翼(農本)團體ノ動向

(ハ)右翼各種系体及要注意者ノ動靜ニ依テ沈黙ス

稿ニシテ特異ノ動向モ之ヲ洞紙ニ抄テ直セリト云
尊攘曲同志會大東塾 大日本明訓會中心人物、
自快ニ對シテハ讚嘆ノ情ヲ披瀝スル及面死而已ガ奉

公ノ最大ナルモノニ非ストノ意獨ツテ元陳ミツケアリ

(2) 兎五拔刺主幹 兎王譽士雄(國粹同盟國權關係者)

ハ昨ニ千人日妻ノ疎閑先名西八心郡富里村下都 矢野
きく方ヲ來訪一泊ノ上退峽セルガ向後ノ動靜嚴重内傳

中

(3) 曩ニ甲府市ヲ中心ニ「忠良」日本臣民ノ吾等ノ同胞ニ告

ト顯スル不獲文書撤布一者

西八心郡 古閑村 赤地利 雄

ハ本日自宅ニ立回リタルヲ以テ所轄署ニ於テ取押シ

(目下横東取調中)

四朝鮮人の勤向

1. 廿日夜 東京都 (以下不詳) 大城某 (半

島人ト認メラル) ナル者 並崎所ニ工事 飯場

ヲ来訪 大林組 配下 班長 高山 某ト面接

同人ニ好シ

来シ九月三日 都下新宿駅前 建築学館ニ於テ

半島人 向後 措置ニ干シ 大會ヲ開 催シ 其ノ

決議ヲ當否ニ提 出スルヲ以テ 當地

飯場ヨリ之 大衆ニ前ニ於テ 演説ヲ為シ 得シ

者ニ三 名ヲ出 席セシメラレ 度シト 申出シ

為シタル 事實アリ

(本件ニ付テ 昨日 在府ニ連絡シ 大會ノ

性格 調査依頼中)

2. 西八代郡富里村 (部)

山 梨 県

同村六城在往中、幸島人平井南壽
日本政界報ニ接シタニ以來近在山中
ニ籠リ断食決行中、

ト、風評、事ヲナルヲ以テ調査中、

五、農林方面
其他朝鮮人方面ニ特異、動靜ヲ認メテ

考、馬鈴薯有、共々ニ干シテ一部ニ相当好成

績ヲ收メ、之ニ概シテ不振ニシ、其底意ニ

過敏、配給停止ニシ、食糧亦不足

シ、津イニ産出由ルモト認メ、之ニ處ナリ

一方食糧問題ニ対シ、當局ニ明確ナル施策

ヲ樹立シ、農林民ニ不安ヲ解消スルト

共ニ生産意欲心ヲ昂揚シ、圖ラレ度シト、

要生強シ

回覽

特高秘第

號

昭和二十年八月三十一日

山梨縣知事 中島實藏

内務大臣 山崎巖 殿

治安状況ニ關スル件

首標、件、在、通、有、之、候、条、此、段、及、申、報、候、也

一 一般民意之動向

聯合國軍司令官マカサー元帥、東駐ニ関

シテ、概テ平靜ニシテ、来ルハ早ク、来

カ、ヨク、上、心、氣、通、ス、ラ、察、知、セ、ラ、ル、状、况、ナ

系

其他民意、趨勢、顯之、敗異、痛苦國民
悉之甘受也、國民的感情、格別
不安、動搖、有之

尚、戰事、終結後、於、民、推、移、內、察、
ス、往、年、日、本、精、神、之、脚、不、國民、道、義、
、遂、次、鞠、廢、之、個人、主義、思潮、露、示、ス、
ト、共、勝、利、彼、岸、之、目、指、之、来、之、民、心、一、

朝、之、崩、壞、之、自由、主義、的、風、潮、之、向、
、ワ、ル、ヤ、之、觀、取、セ、ラ、ル、

一、面、異、失、者、家、財、衰、失、及、還、置、人、
一、生、活、物、次、具、概、之、来、ル、ベ、キ、防、衛、之、想、
、其、也、敗、異、ヲ、繞、ル、書、面、之、想、想、的、精、集、
、濟、次、深、カ、ラ、ト、ス、ル、傾、向、之、在、リ、

二、農林方面、狀勢

農村民の痛ク食糧問題。夏慮の生産意欲
頃、向上シツ、ア、

現、南都番郡明見村。於、未開墾地三
十町歩、底墾。着手之外、同郡恩野福
地村等、於、増産対策考究中ナリ
農民、意嚮、綜合スルニ

農村指導ニ干シ、從來、事務家、干渉、
排除スルト共ニ農耕資材、配給、簡素強
カニ実施サレ農民、創意、活発ナル生
産ヲ期セラレ度シ
ト、要望多ク尚一部ニ還元配給制度、改訂
ヲ願望スル向アリ

三、政界思想界、動向

去、廿八日首相官邸下ニ於、セラレテ内閣記者

團・述バラシタル當面、諸問題ニ干スル御抱負
 中、言論賜達議會解散ヲ繞ル御意圖
 政界思想界、言論界ニ相當、反響
 指針ヲ示テハ概シテ賛意ヲ表サレタル一紙ニ
 國政トシテ、河、言論、議會、ツカヤスル自棄
 的感懐ヲ示シタルモノ等ニ教見セシ
 點、我國民タルノ思想環境下ニ於テハ破
 タル連済ヲ把握スルニ得ザル状況ナリ
 國ニ在リテ上層、新教ノ為ニ教、常務
 導者ナリトシテ責任ヲ負科ノ一者ナリ、從
 高、救済金ニ充テルニシトスル等、氣違
 崩芽シレハ、一ニシテ
 既、林ノ在、翼、多、延、分、子、ト、目、ニ、キ、況、玉
 業、士、夫、ハ、志、九、十、一、日、而、ハ、代、新、角、運、村

下流不流... 兇玉... 律... 年... 交...
 下流不流... 兇玉... 律... 年... 交...
 下流不流... 兇玉... 律... 年... 交...
 下流不流... 兇玉... 律... 年... 交...
 下流不流... 兇玉... 律... 年... 交...
 下流不流... 兇玉... 律... 年... 交...
 下流不流... 兇玉... 律... 年... 交...
 下流不流... 兇玉... 律... 年... 交...
 下流不流... 兇玉... 律... 年... 交...
 下流不流... 兇玉... 律... 年... 交...
 中...

1
1
1
1

四 朝鮮人の動靜

全般の通心概不平靜 失業食

難辭 通心 不平靜 失業食

要及心平事象 乃事之 状況 十

有来儿九月三日 新 在 難 學 親 二

花 子 周 儀 笑 十 比 年 島 人 大 會 出 席

有 子 皆 不 並 師 也 二 工 事 秋 夕

朝鮮人

長原 名 貞 (四) 世 向 其 男 (四)

南 名 三 吉 甚 一 思 想 心 温 健 且 在 大 倉

生 房 一 亦 甚 久

五 其他

川 宗 教 界 一 光 一 甚 智 教 一 無 階 卜

神 道 佛 教 一 正 道 一 後 則 一 名 氣 大

二二山 季 果

(2)

月小 秋好 辭 觀 慈度 三
 存下 疎 剛 此 中 六 是 近 統 片
 几 割 總 核 植 竹 食 料 難 等 統 片
 子 生 底 如 賀 威 心 威 心 第 他 在
 復 帶 也 下 是 四 底 此 樣 粉

(3)

軍 表 人 食 味 是 二 核 為 一
 節 向 一

(111) (111)

回覽

特高秘第 號

昭和二十年九月三日

山梨縣知事 中島 賢藏

内務大臣 山崎 巖 殿

治安情況ニ關スル件

首標、件、左記、通り、有之候条此段及
由報候也

一 一般情勢

特異事象無キ天田府市巽災民ニアリテハ軍
ノ復員ニ際シ敵郷將兵毛布衣類持
取リ反感深ク今後、寒空ニ向テ際當

山梨縣

高、戰災援護モサレト作ラ軍ニ於テ何故
ニモ布、如キ差當リ困ワテ居ル戰災者
ニ頒クズ兵隊ニノミ是レルカト、反感強キ
状況ナリ

二、軍・動向

特異ノ動キナシ
在軍解散ニ一般在郷軍人等シタ心中
悲痛ノ感ヲ抱キタルモ既定ノ事實トシテ
沈黙シ居ルガ分會旗ノ處分分會ノ解
散指令等何レ上部ヨリ指令アルモト
シテ待機シ居ルガ師管区聯合會ノ解
散式ニ列席ノ希望者相當アルヤニ認
ノラル

三、朝鮮人ノ動向

特記スベキ事象ナカリシニ作業休止ノタメ
 中巨摩郡飯野村所在ロタコ工事飯場
 ニ於テ半島人相互間ノ痴情干渉ヨリ
 暴行傷害事件発生セルモ背後関係
 波及性等ナシ

四、要視察人要注意人関係

表面平穩ニシテ動向ナク寧ロ一般ヨリ
 今後左翼關係者ニ活発ナル活動ヲ展
 開シ國內混乱ヲ策ス惧アリト風説アリ
 尚代議士今井新造ノ言動ニ關シ今
 人ト政治的同志ナル田府市議 深澤
 小一郎
 今井ニ無條件降伏ニ悲憤シ自決スル
 決心デアソクガ自分等ニ戒メテ辭意シタ

二
 栗
 原

ラシイガ最近、彼ノ氣持ヲ推測スルニ、臨時
議會ニ何カヤラナケレバヨイガト案ジテ居ル彼
君側、奸重臣デアリ就中、木戸存府ヲ
常ニ攻撃シ居リ今度上京スル木戸ニ會
見ヲ申込ムト云ワテ居タラデ、輕率シテナケレバト
心配シテ居ル場合ニ依ツテ、議席ヲ自決
スルカモ判ラヌ云々ト語リタリ

(本件、本省ノ電話申報ズミ)

五、經濟界

平靜ニシテ預金等モ増加シツ、アリ

六、在番外國人ノ動向

甲府市カトリック宣教師佛人、ズンボス、宗
教ノ自由ニ依リ急速ニキリスト教が盛
ナル如ク見ル向エアルガ自分、日本、現在

思想が混乱シテ居ルノ様ニ思ハヌ殊ニ
カトリックニ於テ然リト思フ然シ從來ヨリ
我ニ自由ナク場トナツテ極カ布教ニ努
カスル考ヘデアルト語レリ

七、農村方面

漸次平靜トナリ食糧増産意欲向上シツ
アリ増産供出モ漸次上昇線ヲ辿リツ
ハアルヤニ認めラル

八、流言

山下将軍ハ自殺シタツウダ
其他流言ト認めハキモノナシ

前

昭和二十一年一月十七日

保安課長 事務官 志

静岡縣 特志課

軍一 特異勅白

管下所本部隊ハ何レモ 殿ヲ迄抗戰 若七敵社

望セハ一戰ヲ交ヘトシ 強硬意 仰向 勇々 其一勅

白 抗戰中 一十んカ

東平部(部隊長坂田) 所屬 旅团长ハ 昨十

六日 午後三時ヨリ 隸下部隊長ヲ 集ル

二一六号 岡女手

陸軍ハ降参ナシテ飽迄抗戦スルヲ以テ

戦事準備ヲ三日以内ニ完了スルコ

ト刻意ニ模倣スルニテ各所属部隊ハ概略統

ヲ整備スル等準備中ナリ

一 憲兵ノ守ニテハ各部階級ニツキ若シ陸軍

ハ戦事ヲ継続スルトキハ之ヲ國民カ追従スルヤ

否ヤニ関シ調査ヲ為シトナリ

特ニ秋茅大ニ舞

昭和二十年八月十七日

長

事務官

薛 岡 野 警 察 部 長

警保局保文課長殿

保 20.8.22 第

友軍機(海軍)傳單撤布ニ関スル件

本日午前十時前後友軍機(海軍)單機ニ管下薛岡清水浜松市其他ニ三ノ地域ニ別添ノ如キ「國民諸子ニ告フ」見出スル海軍ノ戰單繼續ヲ表明セシ傳單總數百五十枚迄ヲ撤布シタルヲ以テ出束ル限リ同收スルト共ニ民心動搖防止ニ努メタル結果特異動向無シト右及報告候也

託

警保局

一 撒布日時 八月十七日午前十時前後

二 撒布範囲

群岡市 四、五十枚

清水市 十枚

浜松市 四、五十枚

其他地域 二、三十枚

三 回収枚数 二十枚

四 撒布状況

海軍機軍機ニテ 二〇〇米位ノ高度ヨリ 各市上空ニ撒布ス

五 反響

於得セル 部民中 軍ノ決意ニ共鳴シ 欣喜感激セル者アリ

シテ撒布枚数ナルヲ 大ニ驚ヒタル 反響アリ

國民諸子ニ告グ

帝國海軍航空隊司令

赤魔の巧妙ナル謀略ニ翻弄サレテ勝利ノ信念ヲ失ヒタル重臣閣僚共カト聖明ヲ覆ヒ奉リテ國民ヲ欺瞞愚弄シ遂ニ千古未嘗有ハズ勅ヲ梓スルニ至リテ赤魔謀略ヨリ至リテ極マレリ

日本ノ天皇ハ絕對ノ御方ナリ絕對ニ降伏ナシ天皇ノ軍人ニ絕對ニ降伏ナシ我等航空隊者ハ絕對ニ必勝ノ確信アリボク等ハ明ク承服スルコトハ天皇ヲ御滅シ奉ルコトハ大逆無道ノ大不忠ヲ犯ス事ナリ

外國ノ軍隊ハ神州ニ進駐シボク等吾明ヲ履行スルトキハ戰爭ヲ繼續スルヨリ何百何千倍苦痛ヲ受ルコト火ヲ見ルヨリ明ナリ

今ヤ天原御降臨以來未嘗有大破敗ハ行ハルベシ

カクシテ國內必勝ノ能ハ勢ハ確矣ニ整備サルベシ今こそ真ニ一億総蹴起秋ナリ

兼

國氏補子ニ書カ

帝國海軍航空隊司令

赤慮の妙ナル謀略ニ懸キセシ必勝信念ヲ表ス重臣閣僚共カテ聖明ヲ覆ヒ奉リテ國民ヲ欺瞞愚弄シ遂ニ千古未嘗有リ沼勅ヲ拜スルニ至リ

赤慮の謀略コトニ至リテ極メリ

日本天皇絕對御方ニ絕對ニ降伏ナシ

天皇軍人ニ絕對ニ降伏ナシ

我々航空隊者ハ絕對ニ必勝ヲ確信アリ

ホツクテ聲明ヲ承服スル時ハ天皇ヲ御裁ス奉ルコトナル故ニホツクテ聲明履行命令ニ服スルコト

ハ大道無道ヲ大不中ニ加ス事ナリ

外國海軍隊神州ニ進駐シホツクテ聲明ヲ履行スルキハ戰事ヲ遂行スルコト何百何千倍若

種ニ長クナリ

ソコヨリ明カナリ

今ヤ天孫御降臨以來未嘗有リ大模範ハ行

ハカシカクシテ國內必勝ノ應勢ヲ確實ニ整

備シタルコト直ニ億總蹶起秋ナリ

(冬)

國民諸君子ニ告ガ

帝國海軍航空隊司令

赤慮巧妙ナル謀略ニ離弄セシ必勝信念ヲ失タル重臣閣僚共カ上皇明ヲ覆ヒ奉リ下國民ヲ欺騙愚弄シ遂ニ千古未嘗有リ詔勅ヲ拜スルニ至レリ

赤慮ノ謀略コニ至リテ極マリ

日本天皇ハ絶對御方ナリ絶對ニ降伏ナシ

天皇ノ軍人ハ絶對ニ降伏ナシ

我等航空隊者ハ絶對ニ必勝ノ確信アリ

ホツクム吉明ヲ屈服スル時ハ天皇ヨリ御裁ヲ奉ルコトナル故ニホツクム吉明履行命令ニ服スルコト

ハ天運無道ハ大不中心ヲ犯ス事ナリ

外國海軍隊神州ニ進駐シホツクム吉明ヲ復行スルキハ戰爭ヲ繼續スルコト何百何千倍苦

痛クモ又クルトハ火ヲ月丸ルヨリ明カナリ

今ヤ天孫御降臨以來未嘗有リ大規模ノ行

ハルニシカクニテ國內必勝ノ確信ヲ確實ニ整

備シタルニ今コソ此ノ一志恩威能ハ大

國民諸君子ニ告グル

帝國海軍航空隊司令

赤慮の巧妙ナル謀略ニ離弄セシ必勝信念ヲ失ハル重臣閣僚共ニ上皇明ヲ覆ヒ奉リ帝國ヲ欺瞞愚弄シ遂ニ干戈未嘗有リ沼勅ヲ拜スルニ至レリ

赤慮の謀略ニ至リテ極メリ

日本天皇ニ絶対御方ナリ絶対ニ降伏ナシ

天皇軍人ニ絶対ニ降伏ナシ

我等航空隊ニ有リ絶対ニ必勝確信アリ

ホツクム吉明ヲ承服スル時ハ天皇ヲ御威ニ奉ル

ナトナル故ニホツクム吉明ヲ履行命令ニ服スルナ

ハ天運也世道ハ大不中ニ相ス

外國海軍隊神州ニ進駐シホツクム吉明ヲ履行ス

行スルハ戦争ヲ結締スガリ何百何千倍其

痛ヲ受ルコトハ火ヲ見ルヨリ明カナリ

今ヤ天孫御降臨以來未嘗有リ大規模ハ行

ハルニシカクニテ國內必勝ノ確信ヲ確實ニ懸

信スルコト今コソ有リ一億國民共ニ

(終)

連修公之

大臣了次下 昭和二十一年八月十九日

長官 保安課長 事務官

靜岡縣特高課

軍一勤務 其地ニ于スル件

○管下駐屯部隊ニ在リテハ召集兵一解除

急連ニ実施シ了ト共ニ憲兵隊一解散ヲ

実施シ了リ、召集解除者ハ軍服、軍靴

等一供保者シ了リ、コノ中ニハ兵舎等ヲ

持冬終、寒暑ヲ依報スルモノ等ヲ

二一八三三三

從來軍隊ノ取締ハ憲兵ニ於テ實施シ事ヲシルカ百箇書
 解除ト共ニ總務ノ取締下ニテハ事トナリ、加之憲兵
 隊相及キ解散シワ、了ん狀況ニシテ部隊將兵並
 ニ百箇書解除者ノ取締指導ニ苦慮シ了ん狀況ナリ。
 二、官下駐屯ノ農耕隊ニ在リテモ遂ニ解散ナリ存セ
 ン、了んカ、農耕隊ハ朝鮮人部隊ニ於テハ解散
 ト共ニ其ノ取締ノ取扱ニ相宜ノ困難ヲ伴フナリ

背

以于軍之於天統制之解
深蓋之取扱
乃存せん

一 持取新也相成交

三、~~繁~~率軍府一報告之依
心部隊一部ハ
既ニ山ニ

立於麓リ最後一抗戰
堪下備リ存シ
ハ了レ
模

持了リ

四、
靜岡市駐在知事
学

淳子曹長
倉
光
康
隆

大日本帝國政府

如、妻、長男、西名ヲ、八月十六日、殺害シ、品物一

抗戦ニ参加スト、遺書ヲ、為シ、出立セシ、模様ナリ

五、電話既報セシ、護士部隊、藤車上等兵等、一、氏名

友、如七

陸軍上等兵

妻、口、泰、夫

合

林、上、貞、秀

合

藤、車、正、一

合

和、柳、美、行、夫

合

生、口、建、治

何れ又三重縣人ニシテ 去々十七日午後一時頃部一隊

合

藤本武夫
外一名

長寛二

重臣ヲ暗殺スルヲ以テ今ヨリ坐禁シス

トノ遺書ヲ得シ十四日美年銃ヲ裸ニス、彈丸若干

ト共ニ携帶中ニシテ或裝一式ハ坐禁ヤ

事件ハ知隊ニ於テ極秘扱ヲ存シ居リシ存ルハ

近子母ナリシモノナハ内ニ、三名ハ既ニ逮捕モハ
様ナリ。

六、管内ニ海敵上陸ノテ、官下全般ニ協布セリ

し、婦女子同ニ相率^協テ居リ、且下其ノ

指多ク考セリ

八月十九日

靜岡縣警察本部持音課

(前由)

朝鮮人部隊、解体に伴つ措置を要す伺ふ件

本件関係方面に達し

靜岡縣浜名郡伊佐見村に駐屯農耕に従事する朝鮮人農耕隊兵

集積場を二箇所、計日部隊が解体し各自自由を於て帰郷し得旨を渡す

此の件は、輸送基地に關し緊急に於て便宜供與を乞ふ旨所轄憲兵隊より

申出ありしが其措置如何ハナスレキヤは伺ふ

高層下の同種部隊ニ三より所轄憲兵隊を近用致し之を朝鮮人

大日本

軍兵、保護、丁之保、之、趣、
且、之、等、隊、員、所、持、金、

在、陽、中、俸、給、
限、之、
一、般、之、僅、少、

(折上り國定規格B5二八三×三三七)

第二號 第五一三號

內務大臣
地方總監府第一部長
近都府市長官
官下各署長 殿

靜岡縣知事
警察部長

保安課

20.10. 5金

第

東亞聯盟同志會關東地區代表
連絡協議會開催狀況ニ関スル件

東亞聯盟同志會ニ於テハ戰爭終結ニ伴ヒ同會今後、運営其他機關
明カニ之ニ関スル具體的討議ヲ重ク一大轉換ニ對スル地區會員ニ奮起
實踐活動ヲ促進スル目的、下ニ八月三十一日米一回一柄本縣ニ開催
協議ト併テ本縣各支部役員村石原會長、演說要旨ヲ外山知三郎
ニ說明引續キ關東地區協議會議事事項ヲ討議スル処、
具體的結論ヲ得テ午前十時中三時終了、兼以流石記通達石甲、通一報候也

一 関東地区協議會並静岡県支部幹部會

日時 九月十六日午前八時至十二時迄

出席者

関東地区事務所

枋木県支部

静岡縣側

於 静岡県富士郡岩松村 寶相寺

外山 卯三郎 齋馬

小野 春吉 長山 慶應

本堂 悟山 鈴木 清一 加藤 弘造

外 二十名

會況

午前八時一同寶相寺本堂に着座八時十分司會者鈴木清一議長出席

トナリ

人 枋木縣開催セラレタル大會右原會長演說要旨ヲ副添ニ外山卯三郎

説明

21

關東地區協議會議事々項並支部幹部會

(1) 國民總懺悔

都市解體

國民生活簡易化

二付議(一) 添田同志獲得ノ方法ト(二) 酵素普及西式健康法

千瓦會ヲ毎月回開催ヲ計畫シ關東地區事務所ヲ

東京都淺橋區下落合三丁目一、二、四、六

二 移轉決定

(4) 次期協議會ノ開催

十月十五日午前十時至午後三時迄西區健康法普及會館(舊會館)使用決定

(5) 加藤弘造氏ヲ記者界間接入手ニシテ其現在滿鮮尙胆消息ヲ說明

散會 以上ニシテ關東地區協議會ヲ終了午前十二時散會

以上ニシテ關東地區協議會ヲ終了

昭和 年 月 日
Date

滯 邦 許 可 願
Application for Stay in Japan

知 事 殿
To the Governor of Prefecture

願 出 入 自 署
Applicant's Signature

居 住 所
Address

私儀下記ノ通り滯邦致度候間御許可被下度此段及御願候也
I hereby respectfully request you to grant me permission for stay in Japan and give below the required particulars;

	氏 名 Name in Full		親 柄 Relationship	年 齡 Age		性 Sex	既婚、未婚、獨身 Married, Single	宗 教 Religion	民 族 Nation Or People	國 籍 Nationality		
	Family Name	Given Name		Yrs.	Mos.							
本 人 Applicant												
同 伴 家 族 Accompanying Members of Family												
	滯邦豫定期間 Duration of Stay	職 業 Occupation Present Former		陸海空軍 = 於ケル階級並兵科 Rank and Kind of Service in Army, Navy or Air force, if any.		父 Father 氏 名 Full Name 國 籍 Nationality		母 Mother 氏 名 Full Name 出生國籍 Nationality by Birth		本邦上陸地並渡來年月日 Port of Disembarkation in Japan, Date of Landing		
本 人 Applicant												
同 伴 家 族 Accompanying Members of Family												
	出 生 地 Place of Birth	本 國 = 於ケル住所 Permanent Residence		旅 券 Passport							渡 來 目 的 Object in Coming to Japan	入 國 許 可 ノ 有 無 Whether having special permit for Entry
	Country City or Town	Country	City or Town	番 號 Number	發 給 年 月 日 Date of Issue	發 給 ノ 場 所 Place of Issue	有 效 期 間 Term of Validity	査 證 年 月 日 Date of Visa	査 證 ノ 場 所 Place of Visa			
本 人 Applicant												
同 伴 家 族 Accompanying Members of Family												

第五號樣式 (1)

昭和 年 月 日

Date

滯 邦 許 可 願

Application for Stay in Japan

知 事 殿

To the Governor of Prefecture

願 出 入 自 署

Applicant's Signature

居 住 所

Address

私儀下記ノ通り滯邦致度候間御許可被下度此段及御願候也

I hereby respectfully request you to grant me permission for stay in Japan and give below the required particulars;

氏 名	Name in Full		続 柄 Relationship	年 齡 Age		性 Sex	既婚、未婚、獨身 Married, Single	宗 教 Religion	民 族 Nation Or People	國 籍 Nationality
	Family Name	Given Name		Yrs.	Mos.					
本 人 Applicant										
同 伴 家 族 Accompanying Members of Family										
滯邦豫定期間 Duration of Stay	職 業 Occupation		陸海空軍 = 於ケル階級並兵科 Rank and Kind of Service in Army, Navy or Air force, if any.	父 Father		母 Mother		本邦上陸地並渡來年月日 Port of Disembarkation in Japan, Date of Landing		
	Present	Former		氏 名 Full Name	國 籍 Nationality	氏 名 Full Name	出生國籍 Nationality by Birth			
本 人 Applicant										
同 伴 家 族 Accompanying Members of Family										
出 生 地 Place of Birth	本國 = 於ケル住所 Permanent Residence		旅 券 Passport				渡 來 目 的 Object in Coming to Japan	入國許可ノ有無 Whether having special permit for Entry		
	Country	City or Town	Country	City or Town	番 號 Number	發給年月日 Date of Issue			發給ノ場所 Place of Issue	有 效 期 間 Term of Validity
本 人 Applicant										
同 伴 家 族 Accompanying Members of Family										

51

別

國民總懺悔

外山三郎 西朝道主義我國民道德之展顏村支政策談 誤謬ニ就キ

東京警察及市役所が主体トシテ都市ノ復興ヲ計畫ガ之ハ是正シ
ニ都市人口分散セズトシテ會員ノ實踐運動ヲ起サネバナリ又先ツ政府
計畫ニ對シテ政府ハ又ナリトシテ困ラセラルニ又一方方法ヲ

鈴木清一
世人ノ反感ヲ買フマウトユトヨシタデハ却ツテ疑惑ヲ生ズルカク隱当ナキ方法カ良

會員 某
農村ノ人口分散ハ不可能ダ戰爭中ハ若干土地ニ貸セル人モアツタガ今ソノ人ハ

農民ノ自覚ニヨリテトモタテテ無理ニシテ政府ニ命ヲ貫ハスハ歎目ダ

外山
官僚政治ヲ任舞テ飽迄モ民意ニシテ我ガ御膳也也ハナリ又

昭和 年 月 日

Date

滯 邦 許 可 願

Application for Stay in Japan

知 事 殿

To the Governor of Prefecture

願 出 入 自 署
Applicant's Signature

居 住 所
Address

私儀下記ノ通り滯邦致度候間御許可被下度此段及御願候也
I hereby respectfully request you to grant me permission for stay in Japan and give below the required particulars;

	氏 名 Name in Full		類 稱 Relationship	年 齡 Age		性 Sex	既婚、未婚、獨身 Married, Single	宗 教 Religion	民 族 Nation or People	國 籍 Nationality	
	Family Name	Given Name		Yrs.	Mos.						
本 人 Applicant											
同 伴 家 族 Accompanying Members of Family											
	滯邦豫定期間 Duration of Stay	職 業 Occupation		陸海空軍ニ於ケル階級並兵科 Rank and Kind of Service in Army, Navy or Air force, if any.	父 Father		母 Mother		本邦上陸地並渡來年月日 Port of Disembarkation in Japan, Date of Landing		
		Present	Former		氏 名 Full Name	國 籍 Nationality	氏 名 Full Name	出生國籍 Nationality by Birth			
本 人 Applicant											
同 伴 家 族 Accompanying Members of Family											
	出 生 地 Place of Birth		本 國 = 於ケル 住 所 Permanent Residence		旅 券 Passport					渡 來 目 的 Object in Coming to Japan	入 國 許 可 ノ 有 無 Whether having special permit for Entry
	Country	City or Town	Country	City or Town	番 號 Number	發 給 年 月 日 Date of Issue	發 給 ノ 場 所 Place of Issue	有 效 期 間 Term of Validity	査 證 年 月 日 Date of Visa		
本 人 Applicant											
同 伴 家 族 Accompanying Members of Family											

5-2

十月九日、十日、兩日、県下裾野駅東富士農園ニ於テ会集スルニ
 其他青年隊ヲ組織シテ実践運動ニ婦人部ヲ組織シ簡易生活
 実践ニ役立セルヲ同志獲得ノ一方法トシテ西式健康法ノ研究会ヲ
 月一回開催スルニ計畫ヲ討議シ関東地区事務所ヲ

東京都茨橋区下落合ニ于テ十月二四六(外島血縁者有志)

ニ移轉スルコトニ決定、来月同所ニ於テ協議會ヲ開催(十月十五日 自前十月
 其折西公研究会合身ヲ行フ其ニ新造生活會館ヲ利用スルヤ否
 知ズ等内定、終リニ靜岡縣下裾野分會ヲ交離ニ昇格スルコトニ
 決定セリ

國民生活共同化ニ関シテ、先般、協議會ナシ

第五號樣式 (1)

昭和 年 月 日
Date

滯 邦 許 可 願
Application for Stay in Japan

知 事 殿
To the Governor of Prefecture

願 出 人 自 署
Applicant's Signature

居 住 所
Address

私儀下記ノ通り滯邦致度候間御許可被下度此段及御願候也
I hereby respectfully request you to grant me permission for stay in Japan and give below the required particulars ;

	氏 名 Name in Full		職 柄 Relationship	年 齡 Age		性 Sex	既婚、未婚、獨身 Married, Single	宗 教 Religion	民 族 Nation Or People	國 籍 Nationality	
	Family Name	Given Name		Yrs.	Mos.						
本 人 Applicant											
同 伴 家 族 Accompanying Members of Family											
本 人 Applicant	滯邦豫定期間 Duration of Stay	職 業 Occupation		父 Father			母 Mother		本邦上陸地離陸年月日 Port of Disembarkation in Japan, Date of Landing		
		Present	Former	Rank and Kind of Service in Army, Navy or Air force, if any.			氏 名 Full Name				國 籍 Nationality
同 伴 家 族 Accompanying Members of Family											
本 人 Applicant	出 生 地 Place of Birth		本 國 = 於ケル 住 所 Permanent Residence		券 旅 Passport						
	Country	City or Town	Country	City or Town	番 號 Number	發給年月日 Date of Issue	發給ノ場所 Place of Issue	有 效 期 間 Term of Validity	査 閲 年 月 日 Date of Vi e'	査 閲 ノ 場 所 Place of Vi e'	渡 來 目 的 Object in Com'g to Japan
同 伴 家 族 Accompanying Members of Family											

昭和二十年八月二十五日
 東京府知事
 葛西 光太郎 印
 大藏省
 出入国管理局
 東京出張所
 入国課
 長
 吉野 誠 印

大日本帝國政府

陸軍部

昭和二十一年一月十七日 陸軍部令

事務官 愛知縣特高課

軍一 勅諭 二千九百九十九號

北九州第十一師團長、今卯令之、依、清州

北九州、山下部隊、本報午前、三時、其日

之、名古屋北九州部隊、此市田部隊、午

前、四時三十分、期、夫、土佐、海、

54

大日本帝國政府

敵艦隊ヲ攻撃スル模範ニシテ、同部	隊ニ在リテハ、此等物自動車ニ格別ニ	一般部民ニ對シテ、煽動的ニ奮起ス	ルトシテ、一般民中、	模範ヲ持テ出ル者相高アリ、
------------------	-------------------	------------------	------------	---------------

(國定規格B5二六三三毛紙)

情ヲ吐露シ部下外等ニ對シ再戰指^使嗾ノ言行ヲ示シアルモ漸次大局順隨ノ傾向ニアリ

首題ノ件ニ関シテハ主要ナル事態ニ就キテハ其ノ都度電話既報ノ処ニカ和平佈宣示以降ニ於ケル之ニ對スル管下軍部方面ノ諸動向左記ノ通りニ有之
御參考迄

記

一駐屯諸部隊ノ一般的動向

管下所在……東海軍管區司令部 以下

陸海駐屯諸部隊ニアリテハ和平宣示ニ~~キ~~接シタル激情ト之ニ伴フ軍命令傳達ノ時間的不齊一ナリシニ原因シ特ニ現地部隊等ニアリテハ部隊方針ノ決定上若干遲速アリ比ノ間民心動搖ノ素因トナルカ如キ事象無キニシモアラザ

特秘発見ニ第ニ四九號

事務官

昭和二十年八月十八日

愛知縣知事

古井喜實

内務大臣 山崎 巖殿

東海北陸地方總監 小畑忠良殿



和平宣示ニ対スル軍部方面ノ動向ニ関スル件

要旨ハ突如タル和平宣示ニ対シ管下駐屯各部隊ニアリテハ吃

驚呆然スルト共ニ深刻ナル憤激ノ色認メタルモ漸次冷

静ニ歸シ一般的ニ静寂ヲ殘務整理ノ進行ヲ見ツ

アリ

ハ從而大詔反抗ノ組織的計畫企圖等認ムルニ到ラザ

ルモ部隊少壯幹部級軍人ノ一部ニアリテハ忿満ハ激

ルモ命令事項ノ浸透ニ伴ヒ漸次冷靜ニ取シ一般ニ靜態裡
ニ残務整理ニ從事シアリ

仍テ

山東海軍管区司令部

ニアリテハ事態ノ推移ヲ予測シ居ルモ、如ク王音放送ニ
際シテハ全負儀式ノ場合ノ正装ニテ之ヲ拜聴スルト共ニ
今更何事モ語ル処トシトテ部員一同比較的靜態裡ニ
密書類ノ処理其他事務整理ニ從事シアリ
然レ共部員一層憂色極メテ深キモアリ

司令官 岡田中將ニアリテハ

同日来訪向者ニ對シ和平問題ニ関シ一言モ發マズ沈痛
ナル態度ニテ「君側ノ親米英派ニ誤ラレタト洩シ居ルハ
模稜ナリ

山 東海憲兵司令部

ニアリテハ憲兵司令官ヨリノ訓示並ニ残密書類ノ燒却
指令ニ接シテ承認必謹シヨリニ行動ノ外ナシトテ事務
処理ニ忙殺サレ居リ

隸下名古屋憲兵隊各分隊ニ在リテモ上級校尉ヨリノ命
ニヨリ事務処理ニ後事ニアラモ未端部隊ニ到ルニ後ニ各部
隊長其他部隊幹部ノ主觀介入モ有之知平宣示ニ反
対スル軍部隊ノ蹶起ヲ待望ノ声濃厚ナルモ一アルモ何レ
モ個人的言動ニ止マリ漸次大勢隨順ノ勢ニアリ

③ 名古屋師管区司令部

名古屋地区司令部

隸下 各現地部隊

重アリテハ本月十六日夜間ヨリ翌十七日未明ノ間ニ於テ

57
所屬司令官ヨリ、戰鬥行動ノ一切ヲ停止スベシ、命令ヲ受
領シ之ガ所屬部隊ヘノ傳達事務整理等表面的ニハ極大ニ
靜穩裡ニ進歩セラレアリ

以上ノ如ク軍諸將干ニ於ケル和平宣示ヲ繞ル表面的全体的
動向ハ一應靜穩裡ニ命令事項ノ進歩ヲ見ツ、アリ

然リト雖モ軍人各個ノ心情ハ自ラ又別個ナルモ、アルヲ看取セ
ラレ特ニ一部少壯軍人ニアリテハ武人ノ面目ニ對スル自己ノ主
觀直斷ヨリ大詔ノ是非ヲ論議シ徹底主戰ヲ主張スルモ
ノ幾多認メラレ念激ノ余勢ヲ駈リ不穩行動ヲ敢行敢
嗾セトスルモ、相當有之嚴視ヲ要スベキ狀況ニアリ

(三) 現役軍人ニ依ル特異言動

(1) 管下 丹羽郡大山村駐屯

師第 五八四部隊

綿屋系 一部 少尉

ニアリテハ八月十三日夜部下トノ合同席

上中央ニ於ケル和平説ヲ聞知慷慨落涙シ

居リタルガ本月十五日午前十時上京スルト稱

シ名驛 癸丑 癸マリ

合同同ニ列席シタル真野在尉ハ

コシナ馬鹿ナ事ハナイ之迄苦勞ガ水泡

ニ帰シタ

重臣ノ英米主義者ガ策略シ聖明ヲ曇リ

奉ツタカラダコシナ者ハ一掃シテ仕舞ハ

ナチレバナラナイ

コイツ等ハ命トガ惜シイカラ官城ノ奥深

ク隠レテ居ル事ヲダラウ又官城ハ十重二十

重ニ警戒サレテ居ル事ヲダラウ之々

トノ言動ヲナラシム模倣ナリ

(2) 名古屋師団司令部勤務ノ將校七名

ハ八月十五日午八時ヨリ午之刑零時迄

豫テ懇意ナル

千種区田代町

兼 松 某

亦ニ於テ酒食ヲ共ニシ和平ニ發表ニ関シ懇

談シタル模倣ナルガ其ノ内容ハ

師管区ハ大勢ハ秘命ニ従順ノ行方デアル

カ吾等トシテハ承服シ難ク此ノ儘デハ治ラ
ナイト思フ

トノ意見見南陣陳セラレタル機極ナリ

(三) 東海軍官長司令部

中尉 山口 某

右ハ十五日予命實允 某方ヲ訪問シタルガ
實允外由中ナリシニ爲 留守居申ノ者ニ
対シ

念々最命ノ秋が来タ 今度ハ俺ハ生キテ
帰レタ事ニナツタカラ足ニ宜シク位ヘテ矣レ

トノ最命ノ決戦意ノ程ヲ批擡シ立去リタリ
(四) 小紋飛行場所在ノ柴田中隊四官少尉ニ
在リテハ八月十五日發表表直信令飛行場所在

ノ飛島組率務所ニ至リ夕今ノラヂオ放
送ハデマデアルト放言セリ

15) 東海軍憲兵司令部ニ村准尉ニ在リ

~~テハ和平発表ニ対シ悲憤慷慨ニ軍一將ノ
襟章ヲ破棄セリ~~

16) 熱田砲兵工廠ノ某中尉ハ詔書拜聴後
抜刀ニテ工員ニ対シ

「無条件降伏ニ賛成ノ者ハキヲ獎手ゲロ」
「彈入ヲ造ル者ハキヲ獎手ゲロ」

ト稱シタルモ何レモ工員ハキヲ獎手ゲズ

等ノ事ヲ象アリタリ

17) 友軍戦闘機ハ大詔喚発後數回ニ亘リ各部下
各所ニ別添内容ノ如キ檄文ヲ散布セリ

(8) 東海軍経管区司令部 副官某少佐ハ本

月十七日管下右翼分隊ノ訪問セルニ対シ

「民間ニ君等ノ様ナ熱意ノ有ル者ガアル事」ハ

全ク稀ニイ

君ノ支持ハ善ク解ル軍ノ行動ニ関シテハ絶

對仕ニテ益ヲ與レ軍ニハ期スル処ガアル絶對

大丈夫ダ

オニ固ノ大詔ガ渙発セシメ機今日ハ合議ヲ

準備シテ居ルガ之々ト稱セリ

(9) 管下清州飛行場山下部隊ハ本月十六

日戦闘再準備ナリトシ之カ必需物資ヲ荷物

自動車等ニ依リ運搬セルガ部隊兵等ハト

ラツク上ヨリ戦争再開ナル皆サン煩張ツク

下サイ 等 奇聲ヲ 奏ケテ 騷然トシタルモノアケ
之カ為 近隣 部民ハ 何レモ 竹槍 爲口 等ヲ持
參 萬 歳々々ト 叫ビツ、 騷然トスル 事案アリ
尚本 七 節 本 卷 三 周 子 外

國民諸子ニ告グ

帝國海軍航空隊司令

亦魔ノ巧妙ナル謀略ニ翻弄サレ必勝ノ信念ヲ失ヒ
タル重臣固僚共ガ上聖明ヲ覆ヒ奉リ下國民ヲ
欺瞞愚弄シ遂ニ千古未曾有ノ詭勅ヲ拜スルニ
至リ
吾魔ノ謀略茲ニ至リテ極マレリ
日本ノ天皇ハ絶対ノ御方ナリ

絶対ニ降伏ナシ

天皇ノ軍人ニハ絶対ニ降伏ナシ

我等航空隊ノ者ハ絶対ニ必勝ノ確信アリ

ホソガム声明ヲ承服スル時ハ天皇ヲ御成ニ奉ルコト

ナル故ニホソガム声明ノ履行ノ命令ニ服スルコト

大逆無道ノ大不忠ヲ犯ス事ナリ

外國ノ軍隊ノ神州ニ進駐シホソガム声明ヲ履行

スル時ハ戦争ヲ継続スルヨリ何百何千倍ニ

痛ヲ受クルコト火ヲ見ルヨリ明ナリ

今ヤ天孫御降臨以來未曾有ノ大猷被ハ行

スベシクシテ國內必勝ノ態勢ハ確實ニ整備サ

レ

今こそ眞ニ一億總躍起ノ秋ナリ

終



檄

國難來ル!!!

大日本帝國ハ神國ナリ

豊葦原千五百秋瑞穂ノ國

汝皇孫行而治宝祚ノ榮マ

神勅炳トシテ明カナリ

畏レ多クモ三種ノ神器御劍

御鏡ハ武ヲ表徴ス武ヲクシテ

道駐ハ國家ヲ抹殺ナラスヤ

鬼ヲヤンコロ断ジテ入ルベ

之我子孫ノ君ト在スベキナリ

事天壤ト共ニ極ミナカルベキモ

御鏡御璽ハ何ヲ意味シ奉ルヤ

凶家ナシ武裝ノ解除並白鬼

國家舉テテ武裝ヲ誑持シ白

然ラバ國体ノ護持ト

民族ノ純血ヲ保持シ得ルニ
和平ハ可ナリ
武裝ノ解除ト白鬼ヲチヤン
世ノ進駐ハ絶体ニ反対ス
敢テ再戦シ國ヲ以テ玉碎
モ大和民族ノ精神ハ煌々ト
シテ 青史ヲ飾ルベシ 昔
不ノ謀畧ハ且々侵タトシテ進歩
シテアリ 産業ヲ戦士諸君
飽ク迄職場ヲ守ルベシ 農業ヲ戦士
諸君飽ク迄 食糧ヲ確保ス
シ軍ハ總厥起ヲ日シ断キトシテ
頑張ルベシ 國民諸君 白
一凌辱下ニ生キ長ラハントスルヤ
一億五碎ヲ日シ三十年ノ光輝
ナル歴史ヲ守ラントスルヤ何レヲ
取ルヤハ諸君ノ信念ナリ 總ニ起リ 厥起セキ 軍官民ニ体断シテ
國体ヲ護持シ奉ラシ
石檄ス

陸軍航空隊

皇民諸君

海軍建在ナリ

神ヲ持シテ醜敵ヲ待ツ

軍ヲ信頼シ我ニ續ケリ

今迄タカレバ何時ノ日榮シ

死ヲ以テ生ヲ求メヨ

奴慘國ノ慘サハ牛馬ノ

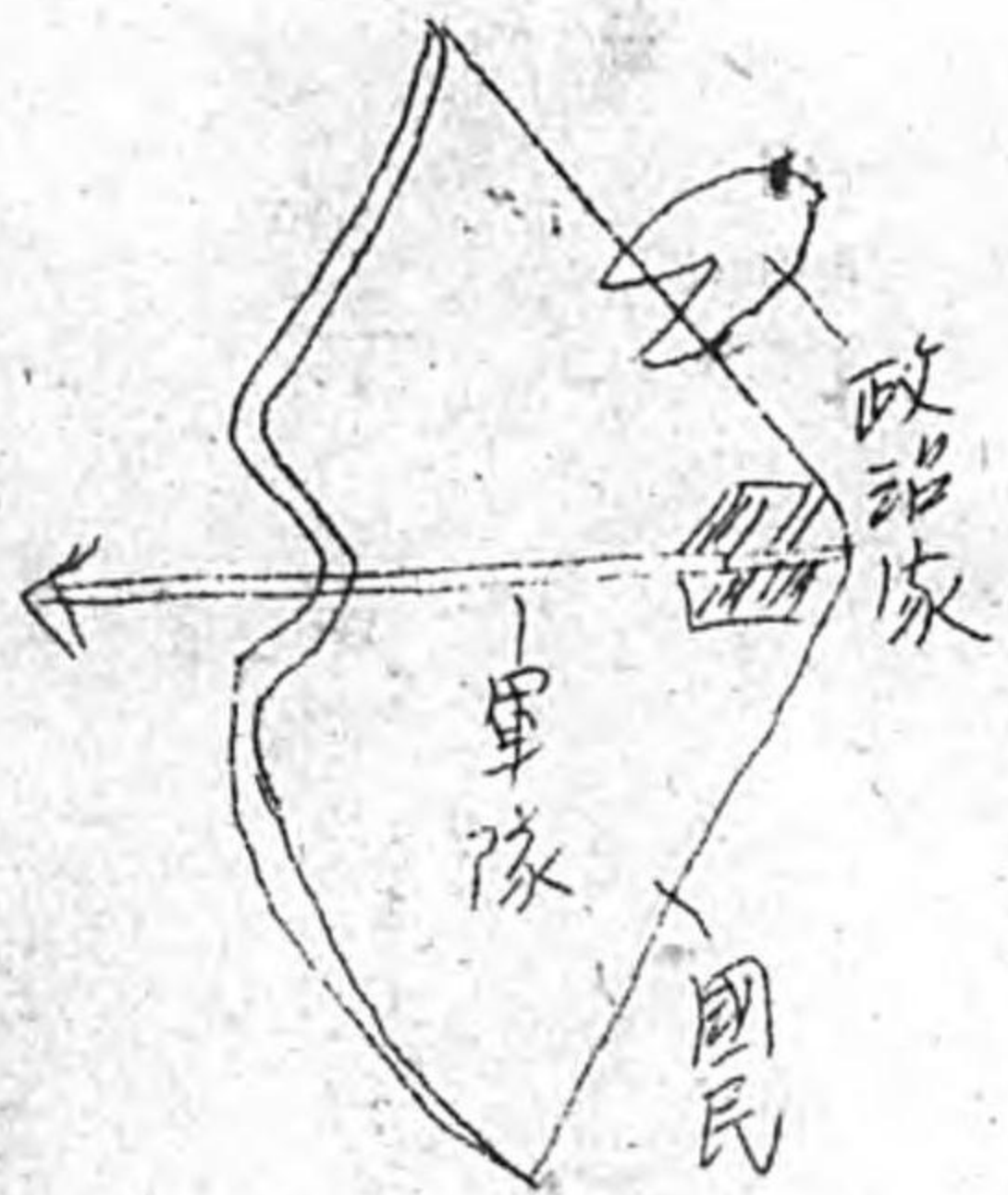
生活ニ似タリ

男子ハ奴隸 女子ハ悉ク娼

婦タリ 之ヲ知レ

神風不滅 最後ノ決戦也

海軍航空隊



國民請正ニ出ロク

皇軍ノ降伏

二字無シ

原子爆彈カ何ガソ聯カ何ガ

特攻ハ無限ナリ

何爲ノ特攻ヲソカ勝利ノ

特攻ヲハナシカ帝國ノ不滅ヲ

確信シタ天ツテ散ツタ

戦史ニ將又悠久ニ三千年ノ

歴史ヲ汗ト油ト染メ祖先

ニ何ント云ツテ謝スベキカ

國民諸君ヨ

重臣ノ毒米ノ皮ニサレテ

吾等共ニ戦ハ 沖繩縣民ニ

取ツナイ様 帝心ハ余航空隊

海軍無任ナリ

海軍無任ナリ

全國赤子ニ告グ

敵ハ畏クモ王體ヲ沖繩ニフイデ比島ニ人
 質トシ奉ルゾキ事ヲ放送ニ末レリ。取命
 人ニ至ル道、交戦ヲ繼續セザルヲ断シテ
 本國體ヲ護持ナシ陸海軍ハ徹底交
 戦ス。僥口民ハ我々ニ續クヲ信ズヤガテ内
 外攘夷ノ御大詔ハ喚ヌセラルゾク陛下
 赤子ヲヨメテ今軍ニモ國民ニモ停戦ハ
 御命令ヲ癸マシレ非ズ
 獨逸ノ慘狀ヲ想起セヨ 婦女子ハ計

愛 印 縣

剛的ニ強クサラシメ民族ノ純潔ハ
破壞ヲシテ在リ

敵ニ重慶ニユクギニアニアフリカニ
數千萬ノ奴隸提修ヲ要求シ来レリ
國民ヨ立テ「エグヤ」ニ甘言ニ感入サ
ル勿レ

總ニ錦ノ御旗ヲ掲ゲ戦ハサル軍隊ハ既ニ
皇軍ニ非ズ

大日本皇國万歳

皇陸軍

天皇陛下万歳

キヨツキハ

ロヨリロニ

全日本放送局及新聞社「エグヤ」ニ建臣

65

政府に買収せしめられた新聞の報道は

【2】三

愛 印 縣

電報譯 一月十九日 通信室

事務官

妻利與特高澤長發

保女澤長記

一、曲言為陸軍一聯備古古為我教友並

生徒四百名、強手強物定、如、十三、三、六

二、丁、三、丁、一、學橋、歌、發、列、車、一、二、三

那、志、心、之、向、一、出、發、移、住、レ、レ、レ、以、テ

大日本帝國政府

御参考迄

(折上り國定規格B5二八二×三五七耗)

安田信

中宗川、華北、八手規

電報譯 八月二十五日

通信室

要知將特高隊長

得安深長

事務官

一、看卜犬山所、駭屯、水第、五八日、部隊

ワタヤキ、一、郎、少尉、和平、説、奮、憤、慨、之、同、志、也

東京防衛司令部、部隊、佐々木、武夫、大尉、ヲ、訪、問、又、

八月二十五日、午前、十時、出、發、一、事、業、了、一、途、途、也、

以上

保安課長

特秘 癸思ニ第百四號

昭和二十年九月十四日

【甲】

秘 封 知 事 一 取 書

内務大臣 山崎 巖 殿

警視總監 坂 信 弥 殿

大東塾関係分子、検査手並取調
ニ関スル件

八月二十八日付暗電手配ニ基キ大東塾々外同人大会
常吉、影郷等分子ニ對シ検査手其、他措置ヲ講ジ
御指示ニ基キ取調タルニ具体的容疑ヲ発見スルニ
至ラザルモ其、状況左記、如クニ有之

記

要 知 際